

平成30年度全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイント

甲府市教育委員会学校教育課

文部科学省は、本年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果を公表しました。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や児童生徒の生活状況の実態等を明らかにすることにより、各学校における児童生徒への指導内容の充実や指導方法の改善、日々の生徒指導等に役立てることを目的としております。

各学校におきましては、自校の調査結果を分析し、課題等を明らかにした上で、指導方法の改善等に役立てながら授業を行っております。また、分析結果につきましては、学校便りなどを通して保護者や地域住民の皆様にお知らせするとともに、各学校のホームページにも掲載する予定です。

なお、各学校では、調査に参加した児童生徒並びにその保護者に対しまして、個別懇談等を通して、個人結果票をもとに、個々の課題や今後の努力点を丁寧に説明し、課題等を共有しながら学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

甲府市教育委員会としましても、市内各小中学校の調査結果を分析、検討し、本市としての全体的な状況や課題等を次のとおりまとめ、今後、各小中学校への指導助言に役立てて参ります。



【お問い合わせ先】

〒400-8585

甲府市丸の内 1-18-1

甲府市教育委員会 学校教育課

電話 055-223-7321 FAX 055-235-5648

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 平成30年4月17日(火)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年, 中学校第3学年

○調査内容

[教科に関する調査] (国語, 算数・数学・理科)

◇主として「知識」に関する問題 (A問題)

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

・実生活に不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

◇主として「活用」に関する問題 (B問題)

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

・様々な問題解決のための構想を立て, 実践し, 評価・改善する力など

※理科は「主として「知識」に関する問題」と「主として「活用」に関する問題」を一体的に出題。

[生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査]

◇児童生徒に対する調査

・学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

◇学校に対する調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校	6年生・1407人
中学校	11校1分校	3年生・1320人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果

【平均正答率で見た甲府市の状況 : 全国・山梨県との比較】

	小学校(6年生)					中学校(3年生)					
	国語		算数		理科	国語		数学		理科	
	A問題	B問題	A問題	B問題		A問題	B問題	A問題	B問題		
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	
山梨県	71	54	62	50	60	76	62	66	48	67	
甲府市	国との比較	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	県との比較	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△

※平成29年度から, 県および市・各学校等の平均正答率は整数で発表されることとなった

※表の見方: ○は同じかあるいは上回っている, △は下回っている

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科（国語，算数・数学，理科）において，全国と比べて， -0.7% から $+1.8\%$ の範囲内（昨年度 -1.9% から $+1.8\%$ ）にある。

〔小学校〕

・国語Aは，全国及び県平均正答率を下回っているが，それ以外の国語B，算数A・B，理科は全国及び県平均正答率と同じかあるいは上回っている。昨年度は，算数A・Bが全国平均正答率を下回っていたので，その点では少しずつ改善している。

〔中学校〕

・国語A・B，数学Bは昨年同様，全国及び県と同じか上回っている。数学Aは全国をわずかに下回っている。これは昨年度と同じ傾向である。理科は，全国平均は上回っているが，県平均はわずかに下回った

（２）経年的に見た結果（小・中合わせた結果）

・甲府市の小中学校の平均正答率の合計は，平成25年度には全国平均正答率の合計を下回っていた。年々その差は縮まり，平成28年度からはプラスに転じた。平成29年度，30年度と更に全国平均正答率との差は広がってきている。経年的に見て，改善の傾向が見られる。

（３）同一生徒の結果の比較

・今年度の中学校3年生が小学校6年生時（平成27年度），市内小学校6年生の平均正答率の合計は全国平均正答率の合計を下回っていた。今年度は全国平均正答率の合計を上回った。同一生徒の結果の比較でも改善が見られた。

（４）各教科の結果

■ 小学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H28年度 該当問題数2，H29年度 該当問題数3〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	5	〔夏休みの出来事の一部〕の中で，…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し，正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書く	3・4年 言葉の特徴 やきまり	H27A2 一 H27A2 二

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H28年度 該当問題数2 H29年度 該当問題数3〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	8ア	文の中で漢字を使う（せい造）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	

【正答率が40%に満たないもの】

〔H28年度 該当問題数1，H29年度 該当問題数3〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	5	〔春休みの出来事の一部〕の中で、…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	3・4年 言葉の特徴 やきまり	H27A2 一 H27A2 二
B	1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ <input type="text"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6年 話すこと 聞くこと 書くこと	H24B2 二 H26B1 三 H28B1 三
B	2二	〔おススメの文章〕の <input type="text"/> に、むし歯を防ぐ効果について、〔保健室の先生の話から分かったこと〕を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6年 書くこと	H24A7 H24B1 二 H25B2 一 H27B1 二 H27B1 三 H29A2 一 H29B2 三

【本市の傾向・課題】

- 「文の中で漢字を使う」ことに課題がある。
 - ・A問題の「文の中で漢字を使う」設問については、5問中4問が全国平均正答率を下回っていて今後も粘り強い取組が必要である。
- B問題の「書くこと」に関わる部分で正答率が低い。
 - ・B問題については、8問中7問で全国平均を上回っていて、全体として良好であった。
 - ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことには課題がある。

【改善のための方策】

○漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定する指導の充実

- ・漢字練習、漢字の構成、漢字辞典の活用、同訓異字などの学習を行う。また、ノートをとる時や学習感想等を書く時、連絡帳等に文や文章を書く際など、漢字を正しく使うように指導する。

○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く指導の充実

- ・主語と述語は、文の骨格を成すものであり、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語の照応関係が大切であることについて、文章を読んだり表現したりするときに強く意識できるようにする必要がある。具体的には、児童が自ら主語と述語が照応していないことに気づき、正しく書く必要性を実感できるよう、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする学習での指導が考えられる。

○目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く指導の充実

- ・自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分伝わるように書くためには、複数の資料から情報を得て、詳しく書くことが必要となる場合がある。その際、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関連付けて捉えたりすることが大切になる。また、情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるように指導することが大切である。

■ 小学校算数

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H28年度 該当問題数2, H29年度 該当問題数1〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5年 数と計算 5年 算数的活動	H24A3(1) H29A1(2)
A	7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している	3年・5年 図形	H20A7
B	1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる	3年・4年 5年・図形 4年 量と測定	H23B3(3) H27B1(3) H27B3(2) H28B5(1)
B	4 (1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	2年・3年 数と計算 2年 算数的活動 4年 数量関係	H19B2 H26B1(2)

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H28年度 該当問題数5, H29年度 該当問題数5〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	4年 数量関係	H22A9(2)
B	3 (2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。	3年・5年 数量関係 5年 算数的活動	H20B2(2) H20B2(3) H20B5(2) H23B4(1) H25B5(1)

【正答率が40%に満たないもの】

〔H28年度 該当問題数4, H29年度 該当問題数6〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
----	------	-------	-------	------	------

B	3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	3年 数量関係	H19B3(1) H19B3(2) H20B2(1) H21B3(2) H21B5(1) H21B5(2)
B	3 (2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。	3年・5年 数量関係 5年 算数的活動	H20B2(2) H20B2(3) H20B5(2) H23B4(1) H25B5(1)

【本市の傾向・課題】

- 「数と計算」の領域や「量と測定」の領域では、多くの児童が今回出題された内容についておおむね理解しており、全国との差も比較的小さい。ただ、小数の乗法や除法、単位量当たりの大きさの理解については課題がある。
- 全般的に「数量関係」の領域や「図形」の領域での正答率が低く、基本的な知識や技能の定着に課題がある。また、数学的な考え方を試される問題での正答率が低く、中でも表やグラフの読み取り、適用すること等、知識や技能を活用する力に課題がある。これは、全国や県と同様の傾向である。

【改善のための方策】

○「数量関係」に関する学習指導の充実

- ・四則の混合した式の計算や四則に関して成り立つ性質について十分に習熟させるようにする。
- ・異種の二つの量の関係を表した図を示した上で、単位量当たりの大きさを求める学習活動を設定する。
- ・1つのグラフや図表から、全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習や、複数のグラフや図表を比較したり関係付けたりする学習を行い、図表やグラフの読み方の理解を深める。また、読み取ったことを的確に表現するために、概略を示す言葉や比較を示す言葉などの表現の違いや効果など、目的に応じた使い方を指導する。

○「図形」に関する学習指導の充実

- ・日常生活の事象を図形に着目して観察し、図形についての理解を深めたり、図形の性質を日常生活に生かしたりできるように指導する。

■小学校理科

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

【H27年度 該当問題数 2】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	4年 生命・地球	

2 (2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	5年 生命・地球	H27 3(2)
2 (4)	上流側の曇の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	5年 生命・地球	H24 2(3) H24 4(4) H24 4(5)
3 (1)	風の吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	4年 物質・エネルギー	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H27年度 該当問題数 7〕

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4 (3)	食塩に水を溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	5年 物質・エネルギー	

【正答率が40%に満たないもの】

〔H27年度 該当問題数 2〕

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (3)	一度に水を流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られた方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	5年 生命・地球	H24 2(3)
4 (3)	食塩に水を溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	5年 物質・エネルギー	
4 (4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	4年 生命・地球 4年・5年 物質・エネルギー	

【本市の傾向・課題】

- 全国平均正答率との比較において、基礎的な知識や技能の定着、知識・技能を活用する力の双方で、全国をやや上回っている。
- 実験結果を基に分析し、根拠や理由を示しながら自分の考えを説明することに課題がある。
- 結論を導き出すために、観察・実験で得られた結果を事実として、それを根拠に考察していくことに課題がある。

【改善のための方策】

○目的を考えながら、観察や実験に取り組ませる

- ・「何を調べたいのか。」「調べようとしていることは何か。」をしっかりと捉えさせる。実験方法を考えるとき、結果をまとめるとき、結果から考察するとき、自分で書いた実験の目的（まとめ）を読み直し、それに対する書き方を工夫させる。
- ・授業における様々な場面で、実験の目的を意識させる。

○事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を説明させる

- ・考察したことや判断した理由を説明する際は、観察・実験の結果を基に事実と解釈の両方を示す必要があることを指導する。
- ・表現したことを振り返り、事実の捉えは適切か、解釈した内容は問題と正対しているかなどを確認させると同時に、事実と解釈の両方を表現することがよりの確な説明になることを捉えられるように指導する。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H28年度 該当問題数6, H29年度 該当問題数8〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	6一	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	1年 話すこと・ 聞くこと	
A	8三オ	適切な語句を選択する (意見の折り合いを <u>つけ</u> <u>る</u>)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	1年 言葉の特徴 やきまり	
A	8五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基礎的な書き方を理解して書く	1年 書写	
B	3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く	1年 書くこと 読むこと 2年 伝統的な言語文化	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H28年度 該当問題数3, H29年度 該当問題数1〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	8ー2	漢字を書く（舞台の <u>マク</u> が上がる）	文脈に即して漢字を正しく書く	2年 漢字に関する事項	
A	8ー3	漢字を書く（先制点を <u>ユル</u> す）	文脈に即して漢字を正しく書く	2年 漢字に関する事項	
A	8三エ	適切な語句を選択する（彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	1年 言葉の特徴 やきまり	
A	8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	2年 言葉の特徴 やきまり	

【正答率が40%に満たないもの】

【H28年度 該当問題数2, H29年度 該当問題数1】

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	8三エ	適切な語句を選択する（彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	1年 言葉の特徴 やきまり	
A	8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	2年 言葉の特徴 やきまり	
B	1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまっている理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	1年 読むこと 2年 書くこと	

【本市の傾向・課題】

○本市の平均正答率は、国語A（主として「知識」に関する問題）、国語B（主として「活用」に関する問題）の双方で、全国平均とほぼ同程度である。しかし、「文脈に即して漢字を正しく書く」問題、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」問題、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題において課題がある。

【改善のための方策】

○言語についての知識・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・漢字の指導にあたっては、言葉の意味や字形を正確に捉えられるよう、日頃から辞書を活用する習慣を身に付けさせることが大切である。実生活と結びつけながら繰り返し指導を行うことが求められる。
- ・語句についての理解を深めるには、その語句の辞書的な意味から文脈の中での意味を捉える必要がある。語彙を豊かにするためには、類義語を取り上げ、使う場面や伝えたい内容に応じて適切に使い分けたり、話や文章の中で比喻や慣用的な表現を使って、その意味や用法の違いを考えたりするなどの学習活動が効果的である。
- ・文の成分の順序や照応などの文の構成についての理解を深めるためには、語順や語の照応によって表現がどのように変わってくるかを考えることが大切である。日本語の文の構成について様々な気付きをもたらすために、外国語と比較させるなどもひとつの方法である。

○書く能力、読む能力の向上を図る指導の充実

- ・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くためには、まず、思いつきや思い込みにより文章を理解しないよう、段落やまとまりの関係などを捉えて読むことが重要である。指示語や接続語などの学習と関連づけた指導も考えられる。次に、読み取ったことの中で何が必要な情報なのかを見極め、それを整理して書くことが必要となってくる。論の展開を捉えて読ませる指導とともに、中心となる部分や必要となる部分を見つけて要約させる指導も求められる。

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H28年度 該当問題数5, H29年度 該当問題数5〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	1(2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	1年 数と式	H23A1(3) H26A1(3)
A	2(1)	「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15 kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1年 数と式	H26A2(1)
A	10	点(-2, 3)の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる	1年 関数	H21A9(2) H24A11(1)
A	15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	2年 資料の活用	H25A15(1) H26A14(1)

B	3(1)	列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる	2年関数	
B	3(2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	2年関数	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H28年度 該当問題数5, H29年度 該当問題数6〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	2(2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	2年 数と式	H26A2(2)
A	2(4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	2年 数と式	H22A2(5) H23A2(4) H27A2(3) H28A2(4) H29A2(4)
A	4(1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形かを選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	小学校6年 図形	H21A4(1)
A	6(1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	2年 図形	H22A6(1)
A	11(2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	2年 関数	H19A11(2) H26A11(2) H29A13
A	14(2)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	1年 資料の活用	H26A13(2) H27A14(1)

【正答率が40%に満たないもの】

〔H28年度 該当問題数13, H29年度 該当問題数9〕

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
A	12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している	2年 関数	H22A12 H24A12
B	1(3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	2年 資料の活用	
B	2(2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想立てて説明することができる	2年 数と式	
B	3(3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Eが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	2年 関数	
B	5(1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	小学校5年 数量関係	
B	5(2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	2年 数と式	

【本市の傾向・課題】

○全国平均正答率との比較において、基礎的な知識や技能の定着、知識・技能を活用する力の双方で、全国とほぼ同様である。しかし、A問題において3ポイント以上低い正答率の問題が6問あることは課題である。

【改善のための方策】

○数量や図形、関数についての基礎的な知識・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため、学習した内容の意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態に即したきめ細かな指導を繰り返し行う。

○自分の考えを文章にまとめる指導、他者に説明する指導の充実

- ・問題解決のため、前提として、必要な条件や資料の傾向を的確に捉えて筋道を立てて考え、数学的に説明できるよう、生徒同士の学び合いを含めた多様な学習活動を取り入れる。
- ・日々の授業において、見通しと振り返りを意識的に行うことを継続し、学習過程に自力解決・学び合いの機会を設定し、主体的で対話的な授業を工夫して深い学びにつなげる活動を継続する。

■ 中学校理科

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

〔H27年度 該当問題数 12〕

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当分野	過去問題
2(2)	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	第1分野 (2)身の回りの物質	H24 4(1) H27 1(1)
3(2)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測	太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身につけている	第2分野 (4)気象とそ の変化	
3(3)	方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	第2分野 (4)気象とそ の変化	
7(2)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる	第2分野 (2)大地の成 り立ちと変化	
9(1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と温度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身につけている	第2分野 (1)植物の生 活と種類	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

〔H27年度 該当問題数 0〕

H30年度 該当問題なし

【正答率が40%に満たないもの】

〔H27年度 該当問題数 5〕

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当分野	過去問題
3(1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	第2分野 (4) 気象と その変化	
9(2)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	第2分野 (4) 気象と その変化	

【本市の傾向・課題】

全国平均正答率との比較においてほぼ同等である。課題としては、1つの事象について多角的に捉え、自分の考えを記述する活動に課題がある。

【改善のための方策】

○第1分野、第2分野ともに基礎的な知識・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識の理解、技能の確実な定着を図るため、理科で学習したことの意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態を分析して、他教科との関連も含めたきめ細かな指導を行う。

○自分の考えの根拠や意味を考える場面の設定の充実

- ・実験や観察について基本的な知識・技能は身につけているが、表面的な理解にとどまり、複雑な実験結果の分析や観察をすることに課題があるので、生徒同士の学び合いを含めた様々な学習活動を行う。
- ・日々の授業において、見通しと振り返りを意識的にを行うことを継続し、学習過程に自力解決・学び合いの機会を設定し、主体的で対話的な授業を工夫して深い学びにつなげる。

(3) 無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無解答率が高かった設問数						
	年度	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理 科
小学校	H29年度	7問／15問中	4問／9問中	1問／15問中	6問／11問中	
	H30年度	7問／12問中	0問／8問中	4問／14問中	1問／10問中	1問／16問中
中学校	H29年度	0問／32問中	0問／9問中	3問／36問中	1問／15問中	
	H30年度	13問／32問中	2問／9問中	10問／36問中	0問／14問中	2問／27問中

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・小学校では、国語、算数のB問題で無解答率が全国を上回った設問数が昨年より減少している。
- ・中学校では、国語、数学のA問題で無解答率が全国を上回った設問数が増えている。

○全国との比較の視点から

- ・小学校、中学校とも、全ての教科で無解答率が全国を5ポイント以上上回った設問はない。全国との差は、小学校で最大で1.4ポイント中学校で最大3.4ポイントであり、粘り強く解答する様子が見えてくる。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、算数B問題において無解答率が10%を越えている設問は3問あり、いずれも数学的な考え方に関わる記述式の問題である。
- ・中学校では、数学A問題の基本的な事項に関わる問題でも、無解答率が10%を超えているものもある。数学B問題の「問題解決の方法を説明する」問題等は、無回答率が20%を超えているものもある。
- ・小学校、中学校共通して論理的記述を求められる設問に対する無解答率が高くなる傾向がある。

【改善のための方策】

近年の傾向を考えると、「理由を明確にして説明する」ことや「論理的に説明する」力をつける指導が重要であると考えられる。そのためには、昨年度その対策のひとつとして示した「ノート指導」のなご一層の工夫と充実を図る必要がある。学習の振り返りの活動をする時には学習内容の確認をするとともに感想や批評等を書くことも有効である。その際、自分の意見の根拠となるものや理由等をあわせて記述する指導を繰り返し行うことも効果的と考えられる。

調査結果を踏まえた授業改善の取組

※ **まずは、先生方が調査問題を解きましょう。問題を解いた後は・・・。**

- ①分類の各項目について結果を見ます。
- ②正答数分布グラフの分布の形状から、児童生徒の解答状況を把握します。

1 課題のある設問

- ③全国平均や県平均との差が大きい設問（5ポイント以上差が開いているもの）、正答率の低い設問、無解答率の高い設問に着目します。

2 反応率の高い誤答

- ④解答類型の反応率から誤答の状況（児童生徒はどこでつまづいているのか）をつかみます。

類型2が39.4%で反応率が高い

算数A 1段目：山梨県（公立）の割合 2段目：全国（公立）の割合（%）

問題番号	問題の概要	解答類型									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	5.3	37.8	39.4	14.4					0.2	2.9
		5.4	37.0	41.6	12.6					0.2	3.2
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	54.8	30.2	5.1	6.0					0.6	3.3
		55.6	28.0	5.6	6.6					0.6	3.6

「解答類型」

一人一人の児童生徒の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのもの。

「解答類型ごとの反応率」

各設問の解答類型別の反応率を見ることで、誤答に目を向け授業改善の視点を探ることができる。

正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況や誤答の割合が高い類型に注目することで、児童生徒がどんなことにつまづいているのかが見える。さらに、課題の質を吟味することにより、学習指導の改善・充実を図ることができる。

3 誤答から児童生徒の実態をつかむ

- ⑤誤答の原因（どこに課題があるのか）を考えます。

4 児童生徒の実態を踏まえて授業をつくる

- ⑥対象学年だけでなく、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。

- ⑦「結果と授業改善のポイント」や「なぜ自己採点をするのか」「教科・領域を問わず年間を通じて意識したい授業改善の視点」「国の調査資料（解説資料、報告書、授業アイデア例等）を参考にして、指導改善・充実を図りましょう。

3 質問紙調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査の特徴

① 小学校【児童質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	4.2
3	将来の夢や目標を持っていますか	4.3
12	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	7.9
13	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	6.8
15	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	9.4
19	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	4.3
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	5.5
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	5.4
22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	6.1
27	算数の勉強は好きですか	3.5
29	算数の授業の内容はよく分かりますか	3.8
30	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	5.6
32	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	6.0
34	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	5.8
35	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	4.5
36	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	3.6
38	理科の勉強は好きですか	4.1
39	理科の勉強は大切だと思いますか	5.1
40	理科の授業の内容はよく分かりますか	3.8
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	4.1
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	7.7
43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	7.4
44	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	4.2
48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	6.8
49	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	4.0
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	7.5
52	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	3.3
53	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか	7.5
54	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか	3.3
55	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	4.8
56	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	4.7

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】なし

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
1	自分には、よいところがあると思いますか	3.6
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	6.1
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	3.0
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	5.9
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	5.4
22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	5.1
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	4.6
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	3.5
38	理科の勉強は好きですか	6.6
39	理科の勉強は大切だと思いますか	3.5
40	理科の授業の内容はよく分かりますか	3.7
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	6.7
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	5.9
46	理科の授業では、理科室で観察や実験を月1回以上行いましたか	5.8
47	観察や実験を行うことは好きですか	6.2
48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	5.1
49	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	4.7
54	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	4.0

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
27	数学の勉強は好きですか	-4.9
56	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	-5.6
58	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	-5.9

③児童生徒質問紙調査について

質問紙調査の設問数が小学校は62、中学校は59と昨年度に比べ大幅に減少した（昨年度は小92、中94）。全国平均と比べて3ポイント以上上回る設問が、小学校では31（昨年度は18）、中学校では18（昨年度は37）あった。反対に3ポイント以上下回る設問が、小学校では0（昨年度は3）、中学校で3（昨年度は2）となっている。小学校では、約9割以上の設問で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

小学校では「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」については、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。中学校でも「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」などが全国平均を上回った。

平日に1時間以上家庭学習をする児童は、全国に比べやや少ないもの、ここ3年間で数値は少しずつ高くなってきている。平日に家庭学習を全くしない児童の割合は減少傾向にある。平日に2時間以上家庭学習をする生徒は、全国に比べやや少ないものの、昨年度より数値は上がってきている。平日に全く学習しない生徒も減少している。

学校質問紙調査の結果からも、児童生徒へ学習方法等を具体的に挙げながら指導したり、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけをしたりしていることが分かる。そういった取組のおかげで、学習習慣が身につけてきていると考えられる。

学力の定着のためは、授業を振り返ることのできる課題を与えることを継続的に行っていくことが大切である。また、家庭学習をやってこない子、やることが分からない子をどうフォローしていくかも今後必要になってくる。自主学習の量や内容を個に応じて決めたり、やってきたことを必ず褒めたりすることで、少しずつでも達成感を感じさせられるようにし、全くしない児童・生徒を減らすようにしていきたい。

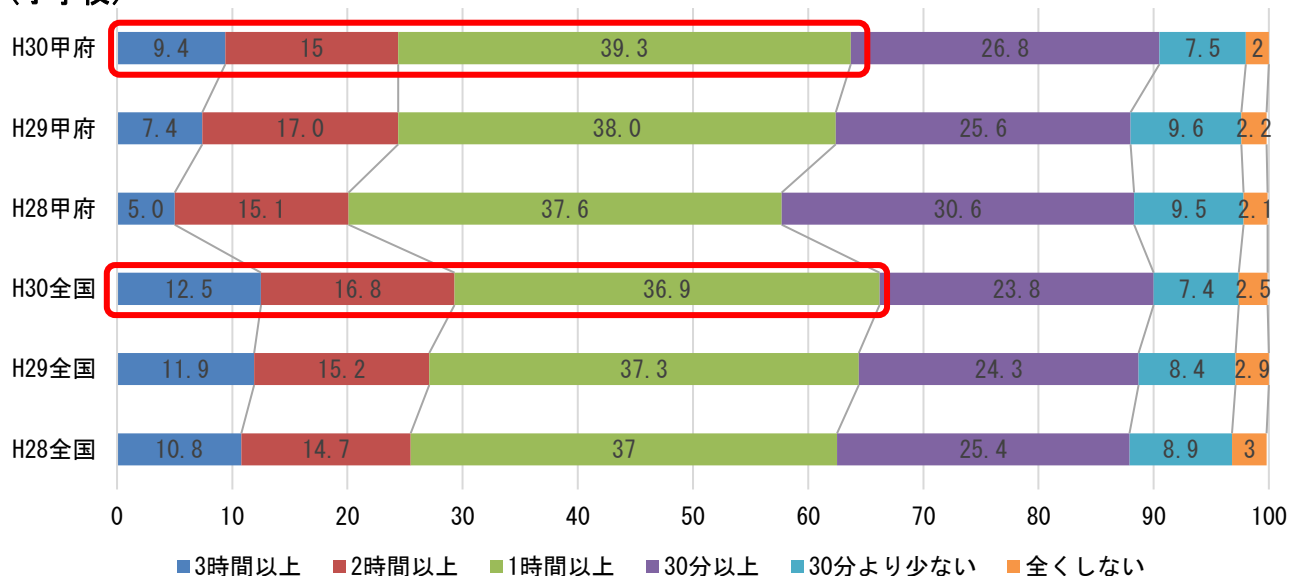
「理科の勉強は好きですか(小4.1)(中6.6)」「理科の勉強は大切だと思いますか(小5.1)(中3.5)」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか(小7.7)(中5.9)」などは、小中とも全国平均を大きく上回っている。理科の学習に興味をもち生活と関わらせながら学びを深めている様子が伺える。小学校では、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」も全国平均を大きく上回っている。様々な方法で問題を解いたり、やっていることの意味を理解しながら学んだりする様子が分かる。

「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う(小4.2)(中6.1)」は昨年に引き続き全国平均を大きく上回り、教員のきめ細かな指導や児童生徒と教員との関係の良さがうかがえる。

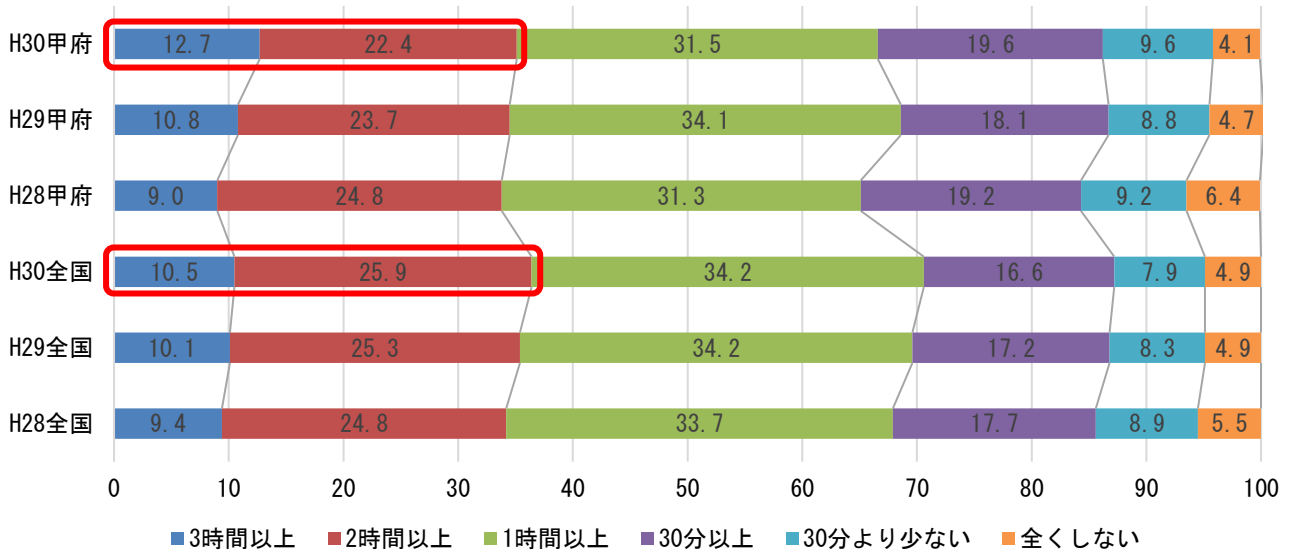
本市の特徴でもある読書指導に関連して、「1日当たり30分以上読書をする」と答えた小学生は50.1%いて、全国平均を9.4ポイント上回っている。

学校の授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む)

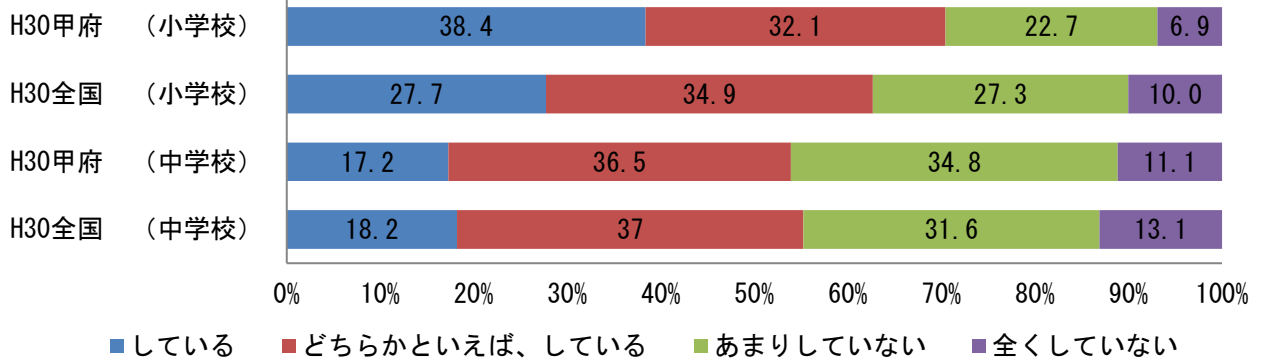
(小学校)



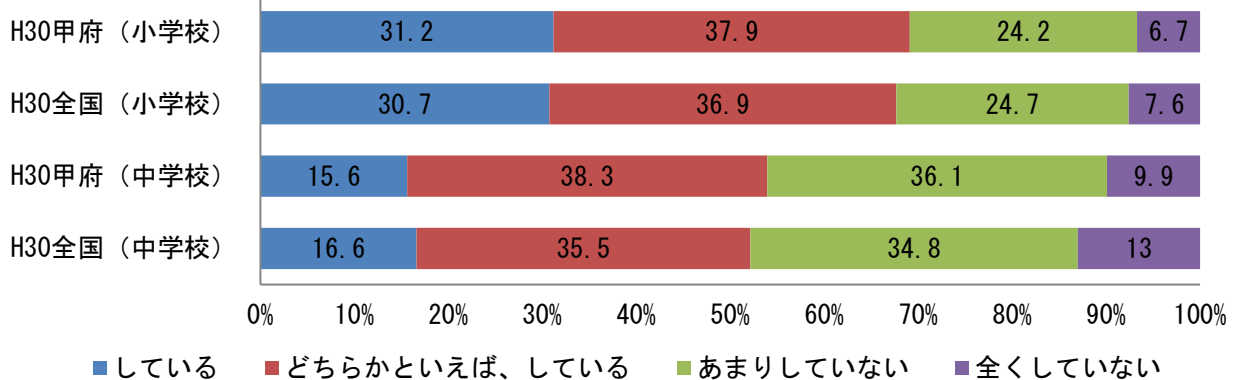
(中学校)



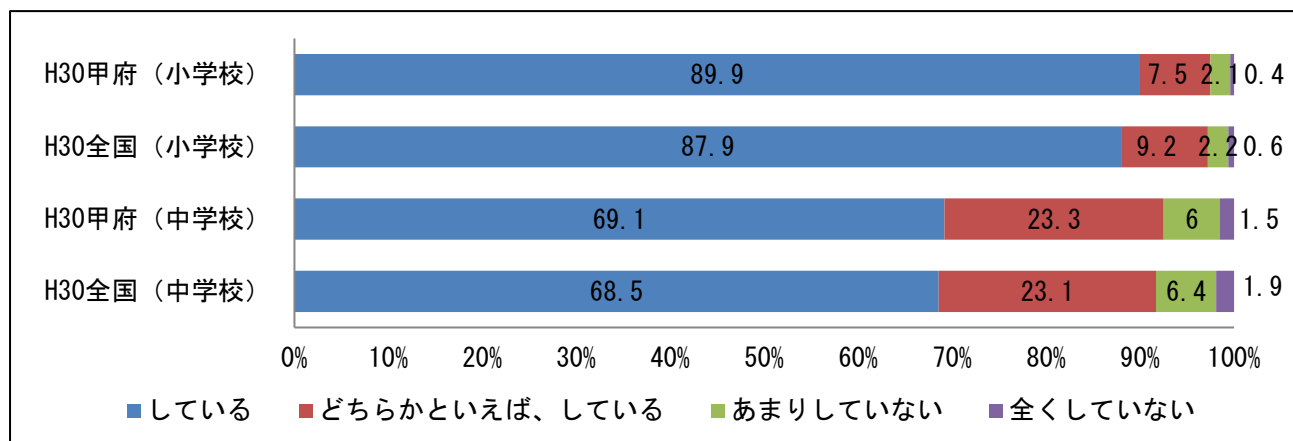
家で、学校の予習・復習をしていますか。



家で、計画を立てて勉強していますか。



家で、学校の宿題をしていますか。



【改善のための方策】

新学習指導要領第1章第1の2の(1)の中にも「家庭との連携を図りながら、児童（生徒）の学習習慣が確立するように配慮すること」とある。家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割があり、確かな学力の向上には欠かせないものである。

○「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る

- ① 学校としての家庭学習の方針や目的
- ② 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- ③ 課題の内容と量
 - ・授業と関わる課題で児童生徒が取り組める内容
 - ・課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習・復習・自主課題など）
 - ・児童生徒が意欲的に取り組める分量

（統一、徹底していくというチームとしての取組が必要。一方で、その児童生徒に合った量や質を考慮していくことも必要）

- ④ 家庭学習の意欲の維持のさせ方
 - ・家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
 - ・努力を認める声かけや励まし
- ⑤ 児童生徒への家庭学習の指導

○家庭への協力を依頼する

- ① 家庭学習の具体的内容・方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- ② 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- ③ 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- ④ テレビやビデオ・DVDの視聴時間、ゲーム、携帯電話・スマートフォンの使用時間などについてルール作りを行うことを促す。

(2) 学校質問紙調査の特徴

1) 家庭学習について

- ①保護者に対して家庭学習を促すような働きかけをしましたか。 (全国平均：全国平均との比較)
- | | | |
|---------------------------|--------|--------------|
| 〔小学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 100.0% | (97.2%：+2.8) |
| 〔中学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 100.0% | (91.9%：+8.1) |
- ②家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。
- | | | |
|---------------------------|--------|--------------|
| 〔小学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 100.0% | (91.6%：+8.4) |
| 〔中学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 83.3% | (87.1%：-3.8) |
- ③家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。
- | | | |
|---------------------------|-------|---------------|
| 〔小学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 88.0% | (84.4%：+3.6) |
| 〔中学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 91.7% | (73.7%：+18.0) |
- ④家庭学習の取組として児童・生徒に家庭での学習方法等を具体的に挙げながら教えるようにしましたか。
- | | | |
|---------------------------|--------|--------------|
| 〔小学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 100.0% | (93.3%：+6.7) |
| 〔中学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 100.0% | (90.2%：+9.8) |

2) 学校としての取組体制について

- ①調査対象学年の児童・生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。
- | | | |
|---------------|-------|---------------|
| 〔小学校〕「行っていない」 | 64.0% | (37.9%：+26.1) |
| 〔中学校〕「行っていない」 | 83.3% | (49.4%：+33.9) |
- ②校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。
- | | | |
|---------------------|-------|--------------|
| 〔小学校〕「毎日」「週に2～3日程度」 | 92.0% | (95.1%：-3.1) |
| 〔中学校〕「毎日」「週に2～3日程度」 | 83.3% | (85.4%：-2.1) |

3) 小中連携について

- ①近隣の小学校（中学校）と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか。
- | | | |
|---------------------------|-------|---------------|
| 〔小学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 56.0% | (69.5%：-13.5) |
| 〔中学校〕「よく行った」「どちらかといえば行った」 | 66.6% | (76.5%：-9.9) |

<引用・参考資料>

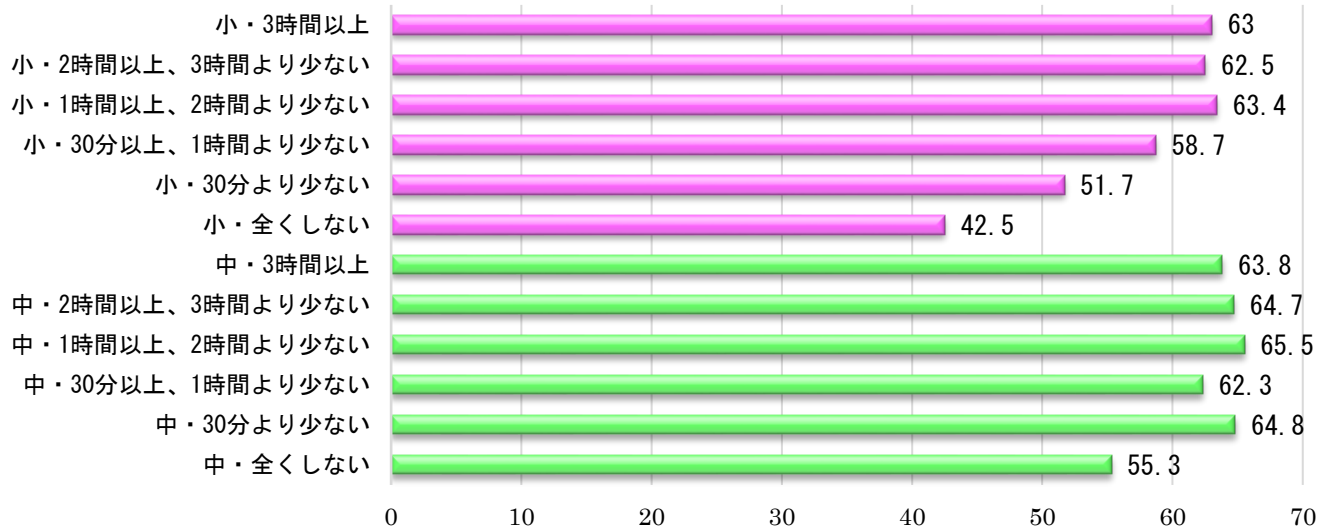
- ・「小学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「中学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「平成30年度全国学力・学習状況調査解説資料」（文部科学省・国立教育政策研究所）
- ・「平成30年度全国学力学習状況調査 山梨県学力把握調査 結果と授業改善のポイント」
(山梨県教育委員会)
- ・「なぜ自己採点をするのか」（山梨県総合教育センター）
- ・「教科・領域を問わず年間を通じて意識したい授業改善の視点」（山梨県総合教育センター）
- ・「平成29年度甲府市における調査結果のポイント」（甲府市教育委員会）

資料 1 平均正答率と質問紙調査の相関関係

このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語 A+国語 B+算数・数学 A+算数・数学 B+理科の平均正答率）÷5を示している。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

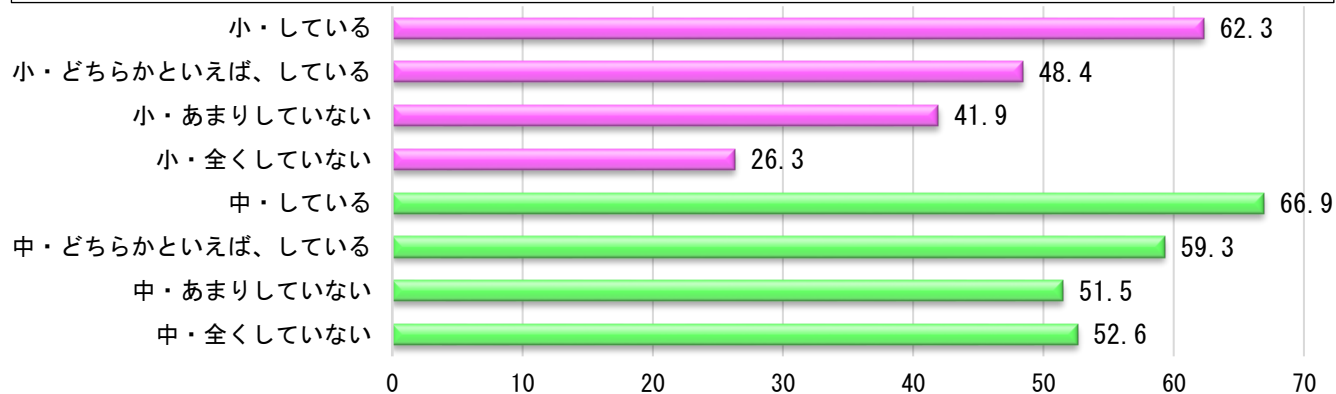
<学習時間>

□学校の授業以外、普段（月～金）1日当たりの学習時間と合計平均との相関関係（学習塾、家庭教師を含む）

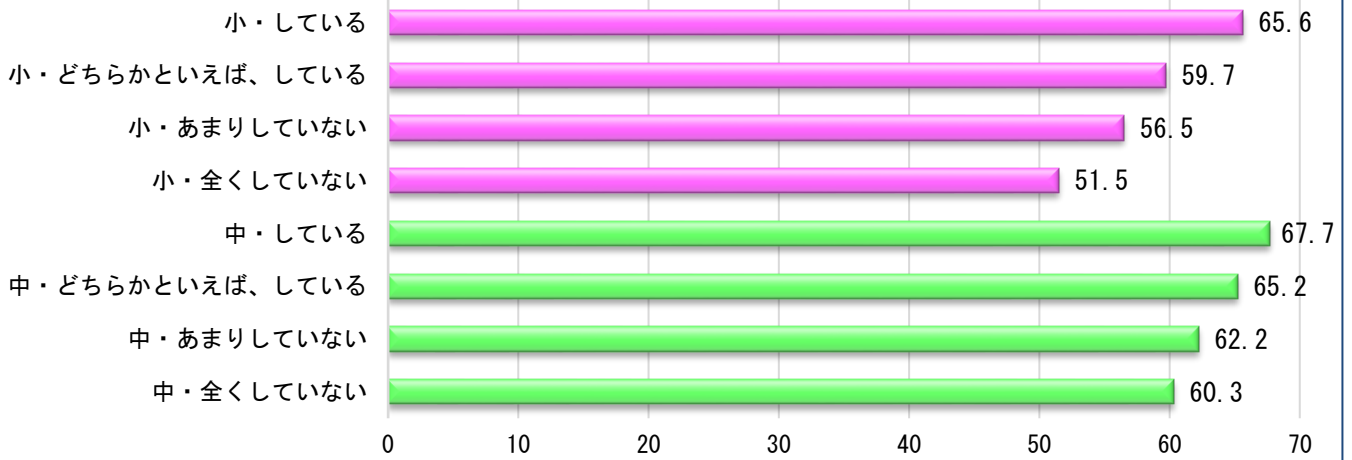


<学習習慣>

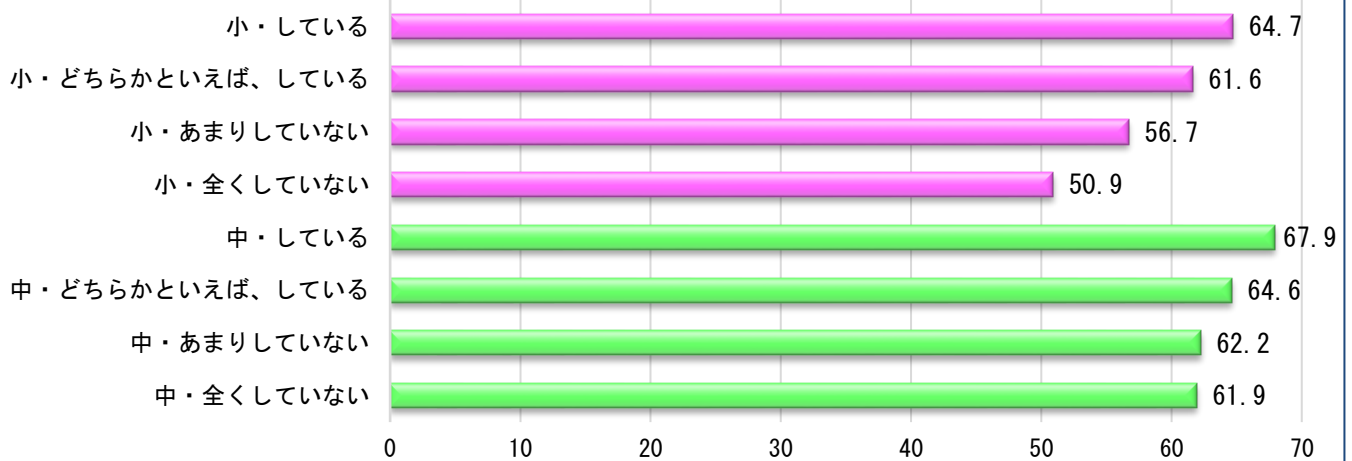
□家で、学校の宿題をしている児童・生徒と合計平均との相関関係



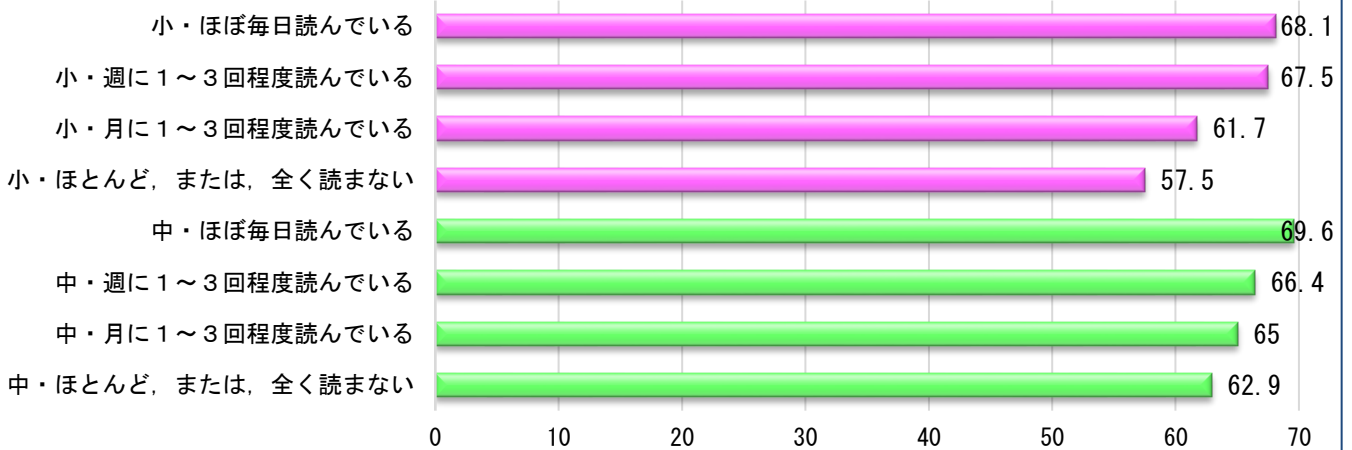
□家で、学校の授業の予習・復習をしている児童・生徒と合計平均との相関関係



□家で、計画を立てて勉強している児童・生徒と合計平均との相関関係

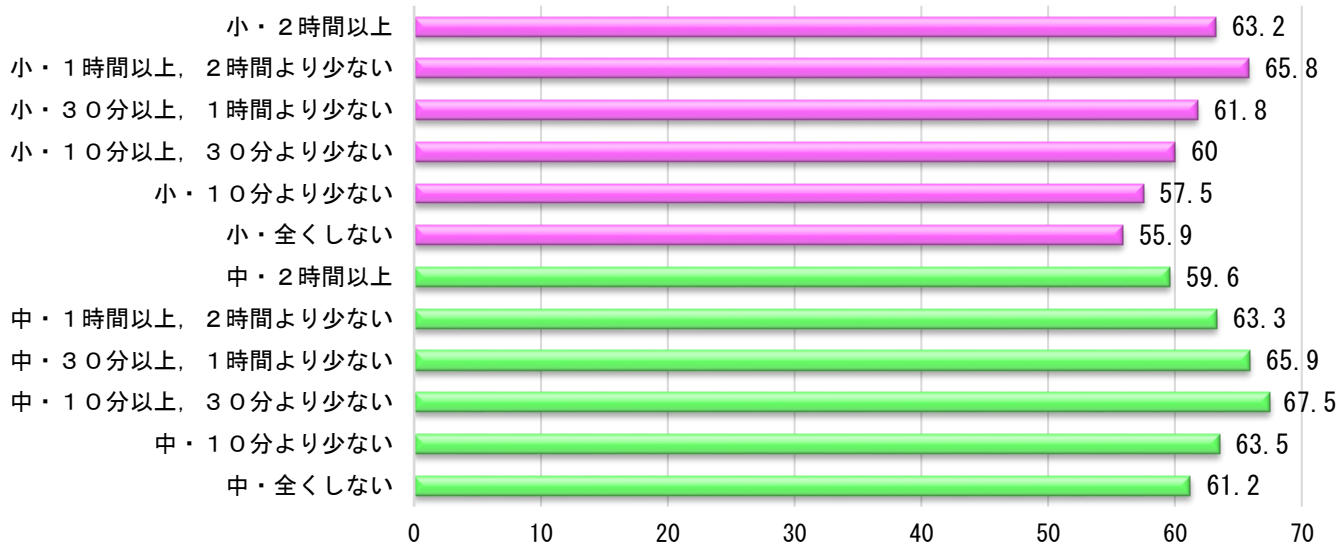


□新聞を読む児童・生徒と合計平均との相関関係



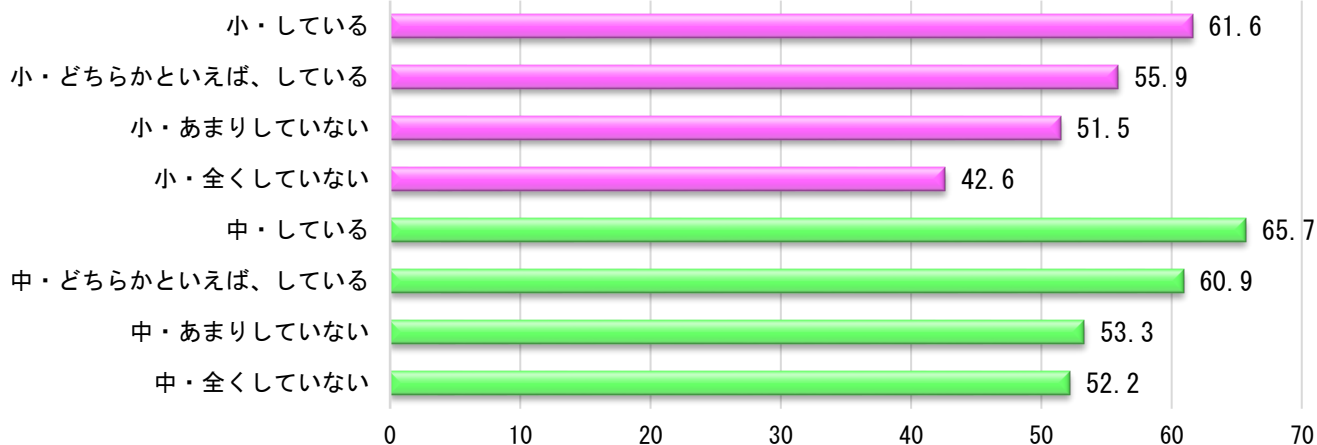
<読書>

□学校の授業以外、普段（月～金）1日当たりの読書時間と合計平均の相関関係（教科書、参考書、漫画や雑誌は除く）

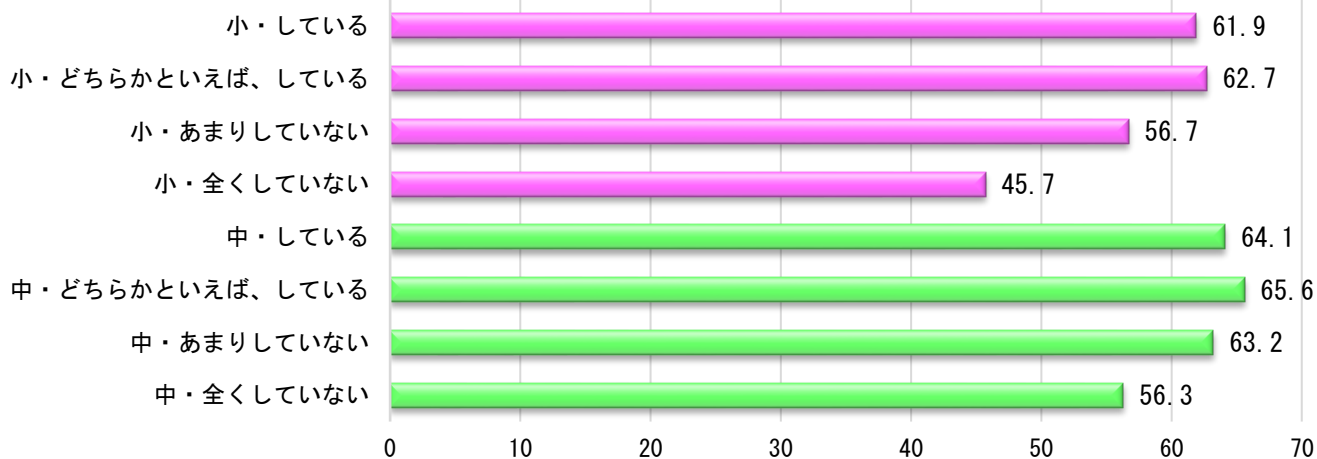


<生活習慣>

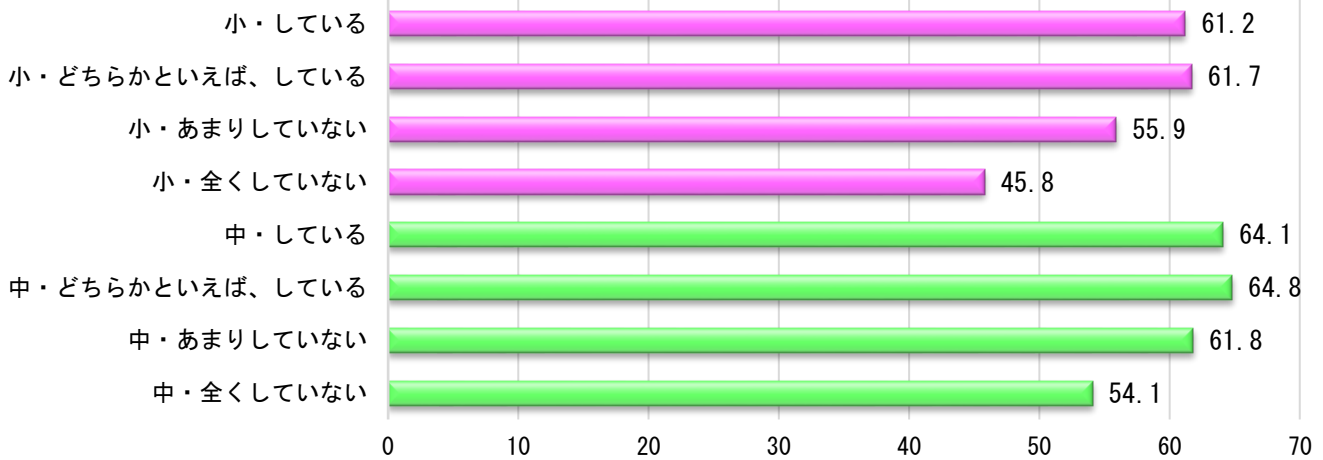
□朝食を毎日食べる児童・生徒と合計平均との相関関係



□毎日、同じくらいの時間に寝る児童・生徒と合計平均との相関関係



□毎日、同じくらいの時間に起きる児童・生徒と合計平均との相関関係



資料2 平成30年度甲府市学校教育指導重点に関わって

平成30年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

国・県両方を上回っている ◎ | 国もしくは県を上回っている ○ | 国・県両方を下回っている △

1 重点目標「思い遣る心の育成」に関わる設問の回答状況

将来の夢や目標を持っている (児童生徒質問紙 設問3)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る	○
人の役に立つ人間になりたい (児童生徒質問紙 設問6)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
地域社会などでボランティア活動に参加する (児童生徒質問紙 設問23)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国・県を上回る	◎

2 重点項目に関わる設問への回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

○小中連携の推進

近隣の小・中学校と授業研究等合同研修を実施 (学校質問紙 小設問77 中設問74)	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国・県を下回る	△

○キャリア教育の推進

「職場見学・職場体験」 (学校質問紙 小設問59 中設問56)	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国を上回る	◎

○特別な教育的な支援が必要な児童生徒への指導の充実

特別支援教育の理解に基づく指導の工夫 (学校質問紙 小設問52 中設問50)	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国・県を上回る	◎

②確かな学力の育成

○読書活動の充実

博物館や科学館，図書館を活用した授業の計画 (学校質問紙 小設問55 中設問53)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る	○
平日の読書時間（30分以上） (児童生徒質問紙 設問15)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る	○

○規範意識の醸成，生命を尊重する心の育成

学校のきまり・規則を守る (児童生徒質問紙 設問4) z	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
いじめはどんな理由があってもいけない (児童生徒質問紙 設問5)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○

○家庭と連携した家庭学習

保護者に対する家庭学習を促す働きかけ (学校質問紙 小設問63 中設問60)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

④健康・体力の向上

○基本的生活習慣の確立

朝食を毎日食べる (児童生徒質問紙 設問7)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国・県を下回る	△
毎日，同じくらいの時刻に寝る (児童生徒質問紙 設問8)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国・県を下回る	△
毎日，同じくらいの時刻に起きる (児童生徒質問紙 設問9)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を下回る	△

平成30年度 甲府市学校教育指導重点

目標

甲府の子どもの教育

豊かな感性とたくましい行動力を持ち、互いのよさを認め合いながら、進んで自己の課題に取り組むことのできる、心身共に健康な児童生徒の育成を目指す。

重点目標

- ・「思い遣る心」の育成
- ・「生きる力」を育む教育の展開

「生きる力」を育む教育課程の編成

確かな学力の育成

「思い遣る心」を育む生徒指導の推進

健康・体力の向上

信頼される学校づくりの推進

□ 「思い遣る心」の育成を重視し、「生きる力」を育む、保幼少及び小中連携を意識した教育課程の編成と実施に努める。

1 「生きる力」を育む教育課程の編成と確実な実施に努める。

- ◎新学習指導要領の趣旨を踏まえ、カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の編成と実施
- ・系統的な外国語教育の推進
- ・教育課程に基づく保幼小及び小中連携の推進

2 将来の生き方をみつめた体系的なキャリア教育の推進に努める。

- ・各発達段階に応じた指導計画に基づく指導の充実

3 特別な教育的支援の必要な児童生徒の教育の推進に努める。

- ・家庭及び関係機関との連携による「個別の教育支援計画」の作成・活用

□ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養い、「思い遣る心」の育成に資する。

1 組織的・計画的に授業改善に取り組み、確かな学力の育成に努める。

- ◎「甲府スタイル」による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり
- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着
- ・言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成
- ・学びに向かう力や人間性を育てる学習指導
- ◎家庭と連携した学習習慣、読書習慣の確立

2 自己をみつめる力と「思い遣る心」を持った道徳的実践力の育成に努める。

- ・全教育活動を通しての一貫性のある道徳教育の推進
- ◎新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価の工夫
- ・規範意識の醸成、生命を尊重する心の育成

3 楽しく豊かな学校生活を築くための特別活動の充実に努める。

- ・望ましい集団活動を通しての自主的実践的態度の育成

□ 学校いじめ防止基本方針に基づくいじめへの対応、不登校・暴力行為等への対応を最優先課題とし、愛と信頼に基づく心のふれあう人間関係をつくり、「思い遣る心」の育成に努める。

1 校内指導体制の確立と機能強化に努める。

- ◎共通理解と統一した指導方針に基づく、組織的な生徒指導
- ・共感的で適切な児童生徒理解、教師と児童生徒との信頼関係に基づく生徒指導

2 教育相談の充実強化に努める。

- ・教職員とスクールカウンセラー等との連携による教育相談

3 存在感が実感できる体験的・実践的活動の推進に努める。

- ・公共心と「思い遣る心」を基調としたボランティア活動等

4 家庭・地域・関係機関との連携を密にした生徒指導の推進に努める。

- ◎児童生徒を中心に据え、家庭、地域、関係機関の役割分担に基づく協働
- ・家庭、地域と連携した情報モラル教育

5 お互いの個性を大切にし、差異を認め合う態度の育成に努める。

- ・個性を認め合い、ともに成長していくことのできる集団づくり、心の居場所づくり

□ 「生きる力」の基盤である、健康・体力・安全に関する資質と能力の育成に努める。

1 自己管理能力の育成と体力向上の基礎の育成をめざした健康・安全指導の推進に努める。

- ・基本的な生活習慣の確立
- ◎日々運動に親しむ習慣の確立と体力の向上を意識した取組の推進
- ・食育、がん教育等の健康教育の推進

□ 「思い遣る心」「生きる力」の基盤となる家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 全教職員の共通理解に基づく指導体制の確立に努める。

- ・学校関係者評価を含めた学校評価に基づく指導体制の一層の工夫改善、充実とその公表

2 家庭や地域との一層の連携を図り、信頼される学校づくりに努める。

- ・積極的な情報発信と授業の公開
- ◎保護者や地域住民が、学校の教育活動に参加する機会の充実

3 安全管理体制の見直しと充実に努める。

- ・安全教育の推進と家庭、地域、関係機関等との連携による安全確保の徹底
- ・個人情報管理の徹底
- ◎危機管理マニュアルの改善と充実、危機発生時における迅速な対応